

『4・5年生大会へのご協力、ありがとうございました！！』

2019年2月4日

広島地区ミニバスケットボール連盟

副会長 大庭 浩 資

選手保護者の皆様、会場のお世話をしてくださったチーム保護者の皆様、指導者の皆様、役員の皆様、先日の4年生大会と5年生大会では、たいへんお世話になりました。

寒い中での、またインフルエンザ流行の中での大会でしたが、皆様のご協力のおかげで、無事終了することができました。心よりお礼申し上げます。

来週の土曜日には、6年生最後の大会も控えております。6年生にとりまして、小学校生活最後のすばらしい思い出になりますよう、改めましてご協力をよろしく願いいたします。

さて、それぞれの新チームにおかれましては、日頃の練習の成果が、十分に発揮できたでしょうか。

私もいくつかの会場で4年生、5年生の試合を拝見しましたが、選手が必死にプレイする姿には多くの感動をいただきました。そして試合後の、選手の笑いあり涙ありの様子は、いつの時代も変わりません。と同時に、選手のために頑張っておられる保護者の皆様や指導者・役員の皆様には、本当に頭の下がる思いがしました。

そんな中ですが、2月4日のスポーツ新聞に以下のような記事がありました。

プロの世界とミニバスケットボールの世界とでは状況は違いますが、試合への入り方や日頃から基礎練習を積み重ねること、またメリハリをつけたけじめのある練習をすることなどは、同じような心構えが必要なのではないでしょうか。

今後、皆様の話題の一つに取り上げていただければ幸いです。

<サッカーアジアカップの後で>

「日本の8年ぶり5度目のアジアカップ制覇が有力視されていた1日の決勝・カタール戦。しかしプレスのかげどころを定められなかった日本は試合の入り方に失敗し、前半12分と27分に立て続けに失点。流れを引き戻せないまま1-3で苦杯を喫し、悲願のタイトル奪回を逃すことになった。

今大会期間中に急成長した20歳のセンターバック（CB）・富安健洋はしみじみとかみしめていた。

「前半は特に難しかったなど。変えようと思っても簡単にポンと変えられるものでもないし、そこに気づいて変えるだけの余裕のある選手がどれだけいたのか。僕は正直、そこまでの余裕はなかった。まだまだかなと思います」と自身の未熟さを痛感したという。

<新井貴浩さん（元広島カープ選手）のキャンプレポート>

— ソフトバンクホークス編 —

「（前略） 柳田選手は、絶対に力を抜いて振らない。何年もずっと続けてきたから、普通なら差し込まれるようなポイントで打っても詰まらないしホームランにもできる。毎日の心掛けと積み重ねがいかに大切か。あのフルスイングは才能だけで生まれたものじゃない。若い選手は見習うべきじゃないかな。

（中略） 柳田だけでなく内川たちも振りが強い。キャンプが始まって3日目。ベテラン、レギュラー陣に「ゆっくりやっていけばいい」という雰囲気は一切ない。

（中略） どの選手も練習中は笑顔が少ない。というより、ほとんどない。たとえばベテランの内川も自分の打撃が終わった後、次の順番が来るまでじっと他の選手の打撃を見ていた。時間があれば誰かにちゃちゃを入れていた僕（新井選手）とは大違い……。やる時はしっかりやり、リラックスする時はリラックスする。オンとオフのメリハリがしっかりしている。しかも、個人だけでなくチームレベルでできている。これも強い理由の一つなのかな。」